

1. 都市活動軸の設定

川越市の自立性を高め、県南西部地域の拠点都市の形成に向けて、近隣都市及び地域相互が円滑に交流できる有機的な連携が重要です。そのため、拠点相互をつなぎ、多量の人、物、情報が流れる都市活動軸を、立地状況や求められる役割に応じて“道路を中心とする都市軸”と“鉄道を中心とする鉄道軸”の2つの軸に分け、それぞれの特性に応じた強化を図ります。

①都市軸：活発な都市活動を支える幹線道路とその沿道で展開される都市機能の連続

- (ア) 放射状・環状に幹線道路を配置し、川越市内の円滑な移動、他都市との円滑な交流を可能にする都市軸を構築します。
- (イ) 現在川越市の交通の骨格をなしている国道16号、国道254号に加え、新たに環状道路の整備によって、市外縁部で展開する多様な拠点を連絡する新しい都市軸の形成を進めます。
- (ウ) 国道や環状道路等の広域幹線道路を補完する幹線道路により交通の主軸を支え、他都市との連携強化を目指し、結節点としての都市機能の充実を進めます。

②鉄道軸：3本の鉄道を媒介にしたまちのつながり

鉄道による多様な都市活動の流れを大切にし、それぞれの特性を生かした軸の形成を進めます。

- 1 東武東上線軸：川越市を支える大動脈
- 2 西武新宿線軸：隣接する所沢と連携した県南西部の拠点間をつなぐ軸
- 3 JR川越線軸：これからの新たな都市発展を支える軸

2. 拠点と生活圏の形成

(1) 地域活動の中心となる拠点の形成

「都市生活の利便性を高め都市活動・交流の場となる都市拠点の配置と各拠点の機能連携」

①都心核

三駅周辺地区から北都市街地に至る南北に長い中心市街地を都心核と位置づけます。更に、この三駅周辺の商業業務中心地を都市的活動核、北部の伝統的な町並み景観が見られる地区を歴史・水・緑の核に位置づけます。

1. 都市活動軸の設定

川越市の自立性を高め、県南西部地域の拠点都市の形成に向けて、近隣都市及び地域相互が円滑に交流できる有機的な連携が重要です。そのため、拠点相互をつなぎ、多量の人、物、情報が流れる都市活動軸を、立地状況や求められる役割に応じて“道路を中心とする都市軸”と“鉄道を中心とする鉄道軸”の2つの軸に分け、それぞれの特性に応じた強化を図ります。

①都市軸：活発な都市活動を支える幹線道路とその沿道で展開される都市機能の連続

- (ア) 放射状・環状に幹線道路を配置し、川越市内の円滑な移動、他都市との円滑な交流を可能にする都市軸を構築します。
- (イ) 現在川越市の交通の骨格をなしている国道16号、国道254号に加え、新たに環状道路の整備によって、市外縁部で展開する多様な拠点を連絡する新しい都市軸の形成を進めます。
- (ウ) 国道や環状道路等の広域幹線道路を補完する幹線道路により交通の主軸を支え、他都市との連携強化を目指し、結節点としての都市機能の充実を進めます。

②鉄道軸：3本の鉄道を媒介にしたまちのつながり

鉄道による多様な都市活動の流れを大切にし、それぞれの特性を生かした軸の形成を進めます。

- 1 東武東上線軸：川越市を支える大動脈
- 2 西武新宿線軸：隣接する所沢と連携した県南西部の拠点間をつなぐ軸
- 3 JR川越線軸：これからの新たな都市発展を支える軸

2. 拠点と生活圏の形成

(1) 地域活動の中心となる拠点の形成

「都市生活の利便性を高め都市活動・交流の場となる都市拠点の配置と各拠点の機能連携」

①都心核

三駅周辺地区から北都市街地に至る南北に長い中心市街地を都心核と位置づけます。更に、この三駅周辺の商業業務中心地を都市的活動核、北部の伝統的な町並み景観が見られる地区を歴史・水・緑の核に位置づけます。

◆ 都市的活動核：三駅を中心とした周辺

県南西部地域の拠点として、ターミナル機能を持ち、集客力の高い広域的都市機能が備わっている

- 大型店や路線型商業による昼間集客力、並びに夜間も含めた飲食施設、及び文化施設等の複合による総合的集客能力の充実

◆ 歴史・水・緑核：北部の伝統的町並み

一番街を中心に伝統的建造物が集積するとともに、新河岸川や喜多院、本丸御殿などの歴史的資源が集積する観光地として、魅力的空間を有している

- 歴史的景観の保全・誘導を図り、商業、文化等の機能を高めた魅力ある都市空間の創造

②地域核：霞ヶ関・南大塚・新河岸・南古谷の各駅を中心とした生活圏域の中心地

鉄道駅を中心に旧来から地域中心的商業地としての都市機能及び都市的活動核を補完する機能と地域レベルの行政・文化機能が備わっている

- 生活圏における、地域の顔としての商業を中心とした機能の充実

③生活核：的場・笠幡・鶴ヶ島・西川越の各駅を中心とする地域核を補完する生活拠点

日常生活の拠点となる生活の場としての機能が備わっている

- 旧来からの地区中心商業地として、商店街が集積した地域コミュニティを育む活動拠点となる基盤整備や環境整備
- 新たな市街地形成の中心となる生活拠点にふさわしい多様な都市機能の充実

④産業拠点：川越狭山工業団地、富士見工業団地、川越工業団地

産業構造や都市構造の変化に対応した活力ある産業機能が備わっている

- 既存工業団地の整備・拡充とともに優良先端産業の誘致、工業の集約化等による自立した産業構造を構築

◆ 都市的活動核：三駅を中心とした周辺

県南西部地域の拠点として、ターミナル機能を持ち、集客力の高い広域的都市機能が備わっている

- 大型店や路線型商業による昼間集客力、並びに夜間も含めた飲食施設、及び文化施設等の複合による総合的集客能力の充実

◆ 歴史・水・緑核：北部の伝統的町並み

一番街を中心に伝統的建造物が集積するとともに、新河岸川や喜多院、本丸御殿などの歴史的資源が集積する観光地として、魅力的空間を有している

- 歴史的景観の保全・誘導を図り、商業、文化等の機能を高めた魅力ある都市空間の創造

②地域核：霞ヶ関・南大塚・新河岸・南古谷の各駅を中心とした生活圏域の中心地

鉄道駅を中心に旧来から地域中心的商業地としての都市機能及び都市的活動核を補完する機能と地域レベルの行政・文化機能が備わっている

- 生活圏における、地域の顔としての商業を中心とした機能の充実

③生活核：的場・笠幡・鶴ヶ島・西川越の各駅及び安比奈線新駅を中心とする地域核を補完する生活拠点

日常生活の拠点となる生活の場としての機能が備わっている

- 旧来からの地区中心商業地として、商店街が集積した地域コミュニティを育む活動拠点となる基盤整備や環境整備
- 新たな市街地形成の中心となる生活拠点にふさわしい多様な都市機能の充実

④産業拠点：川越狭山工業団地、富士見工業団地、川越工業団地

産業構造や都市構造の変化に対応した活力ある産業機能が備わっている

- 既存工業団地の整備・拡充とともに優良先端産業の誘致、工業の集約化等による自立した産業構造を構築

(2) 自立した生活圏の構築

「地域特性を生かし、日常生活の中でまとまりのある圏域」

今までのまちの発展は中心部から放射状に広がり、鉄道駅を中心にまちを形成してきました。今後のまちづくりは、地域固有のアイデンティティを確立した自立ある生活圏の構築を進めていくことが求められています。そのため、市域を5つの生活圏として設定し、それぞれの生活圏で地域住民が豊かな生活を営め、利便性の向上を目指す都市づくりを進めていきます。

●生活圏域：5つの生活圏

中心部 大東 南古谷 霞ヶ関 高階

(3) 都市と自然が共存する2つのゾーン設定

「コンパクトな市街地とそれを包み込む自然共生ゾーン」

①地域活動ゾーン

鉄道駅を中心とする地域の活動的な市街地のまとまりを、地域活動ゾーンとして位置づけ、川越市内における市街地間の関連性から、快適な都市活動ができる開発・改善等の整備や自然環境の保全等を一体的に進めます。

②自然共生ゾーン

市街地を包み込み自然環境を大切にするまとまりを、自然共生ゾーンとして位置づけ、自然と集落（都市）が共生する環境整備及び自然環境の保全策を検討していきます。

(2) 自立した生活圏の構築

「地域特性を生かし、日常生活の中でまとまりのある圏域」

今までのまちの発展は中心部から放射状に広がり、鉄道駅を中心にまちを形成してきました。今後のまちづくりは、地域固有のアイデンティティを確立した自立ある生活圏の構築を進めていくことが求められています。そのため、市域を5つの生活圏として設定し、それぞれの生活圏で地域住民が豊かな生活を営め、利便性の向上を目指す都市づくりを進めていきます。

●生活圏域：5つの生活圏

中心部 大東 南古谷 霞ヶ関 高階

(3) 都市と自然が共存する2つのゾーン設定

「コンパクトな市街地とそれを包み込む自然共生ゾーン」

①地域活動ゾーン

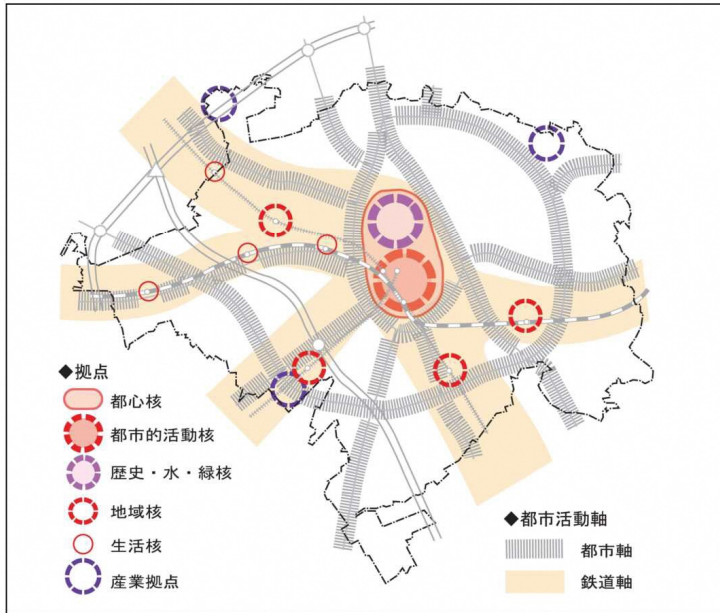
鉄道駅を中心とする地域の活動的な市街地のまとまりを、地域活動ゾーンとして位置づけ、川越市内における市街地間の関連性から、快適な都市活動ができる開発・改善等の整備や自然環境の保全等を一体的に進めます。

②自然共生ゾーン

市街地を包み込み自然環境を大切にするまとまりを、自然共生ゾーンとして位置づけ、自然と集落（都市）が共生する環境整備及び自然環境の保全策を検討していきます。

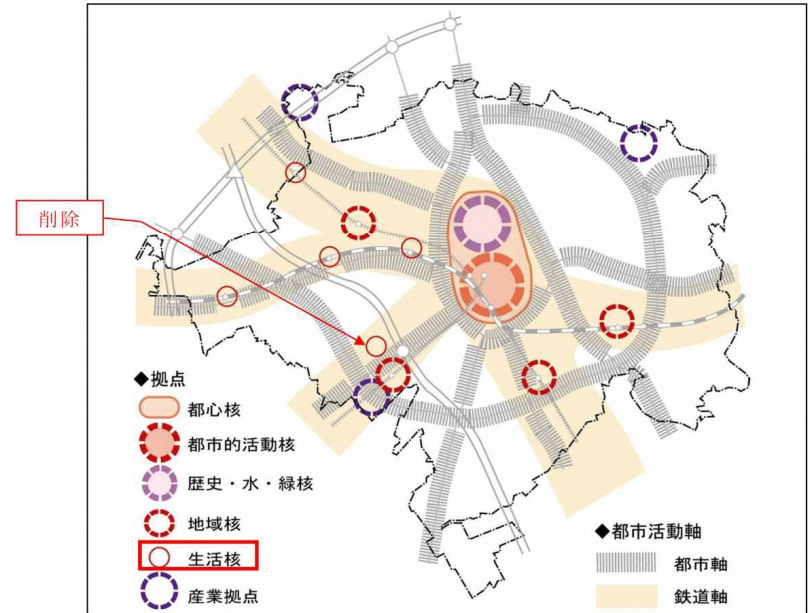
(新)

●拠点と都市活動軸



(旧)

●拠点と都市活動軸



●5つの生活圏と2つのゾーン



●5つの生活圏と2つのゾーン



3. 都市環境の骨格づくり

(1) 緑系

「川越の恵まれた自然環境ゾーンと核」

① (仮称) 川越市森林公園とくぬぎ山地区の里山

(仮称) 川越市森林公園および所沢市、狭山市、三芳町にまたがりまとまった雑木林が広がる「くぬぎ山地区」は、自然環境ゾーンとして位置付け、ふるさとの緑と景観を形成する里山らしい自然環境の保全と活用を図ります。

② 市西部丘陵の森林

武蔵野の面影を残す名細地区及び霞ヶ関地区の広大な樹林地は、自然環境ゾーンと位置付け、市の貴重な緑として活用し、自然とふれあえる場の創造を進めます。

③ 運動公園を核としたレクリエーションゾーン

伊佐沼と連携する川越運動公園周辺は、景観を重視した緑の核と位置付け、市民が憩い集うスポーツ・レクリエーションの場の創造を進めます。

④ 河越館跡の活用

郷土学習の場、市民の憩いの場として河越館跡の有効活用を図ります。

(2) 水系

「市の輪郭となる自然の軸と核」

荒川、入間川、新河岸川、小畔川、不老川等の河川や伊佐沼、低地に広がる水田など、河川及び河川沿いの自然豊かな地域を「市の輪郭となる自然の軸と核」に位置付け、親水空間として保全・活用を進めます。

- 荒川、入間川を基軸とした、水と緑の骨格軸
- 歴史性の高い新河岸川を水の軸
- 伊佐沼、川越公園(水上公園)、なぐわし公園を中心としたレクリエーションゾーンとしての水の核

3. 都市環境の骨格づくり

(1) 緑系

「川越の恵まれた自然環境ゾーンと核」

① (仮称) 川越市森林公園とくぬぎ山地区の里山

(仮称) 川越市森林公園および所沢市、狭山市、三芳町にまたがりまとまった雑木林が広がる「くぬぎ山地区」は、自然環境ゾーンとして位置付け、ふるさとの緑と景観を形成する里山らしい自然環境の保全と活用を図ります。

② 市西部丘陵の森林

武蔵野の面影を残す名細地区及び霞ヶ関地区の広大な樹林地は、自然環境ゾーンと位置付け、市の貴重な緑として活用し、自然とふれあえる場の創造を進めます。

③ 運動公園を核としたレクリエーションゾーン

伊佐沼と連携する川越運動公園周辺は、景観を重視した緑の核と位置付け、市民が憩い集うスポーツ・レクリエーションの場の創造を進めます。

④ 河越館跡の活用

郷土学習の場、市民の憩いの場として河越館跡の有効活用を図ります。

(2) 水系

「市の輪郭となる自然の軸と核」

荒川、入間川、新河岸川、小畔川、不老川等の河川や伊佐沼、低地に広がる水田など、河川及び河川沿いの自然豊かな地域を「市の輪郭となる自然の軸と核」に位置付け、親水空間として保全・活用を進めます。

- 荒川、入間川を基軸とした、水と緑の骨格軸
- 歴史性の高い新河岸川を水の軸
- 伊佐沼、川越公園(水上公園)、なぐわし公園を中心としたレクリエーションゾーンとしての水の核

(3) 歴史系

「市を象徴する歴史観光拠点」(新河岸川一帯の歴史と水と緑が彩る核)

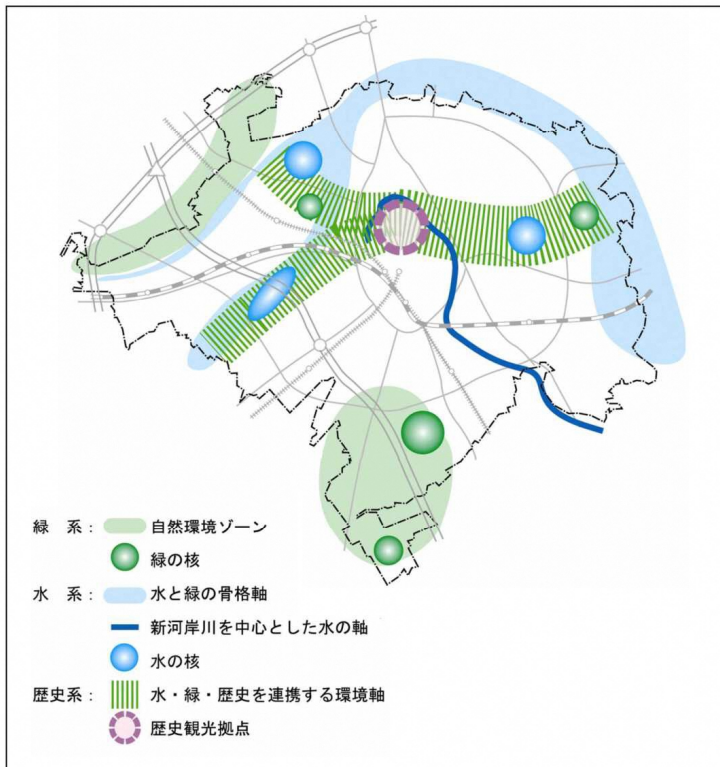
一番街を中心とした蔵造りの町並み、喜多院などの寺社と新河岸川沿いの歴史的環境を有している地区を中心に、歴史観光拠点として位置付け、歴史資源の保全と活用及びネットワーク化を図ります。

(4) 水、緑と歴史を連携する環境軸

荒川・入間川から歴史、水、緑の核を連携する「環境軸」

川越の特徴である歴史や豊かな緑、水を有機的に連携する空間的つながりを環境軸として位置付け、道路整備を含めた周辺整備により快適な都市づくりを進めます。

●都市環境の骨格づくり



(3) 歴史系

「市を象徴する歴史観光拠点」(新河岸川一帯の歴史と水と緑が彩る核)

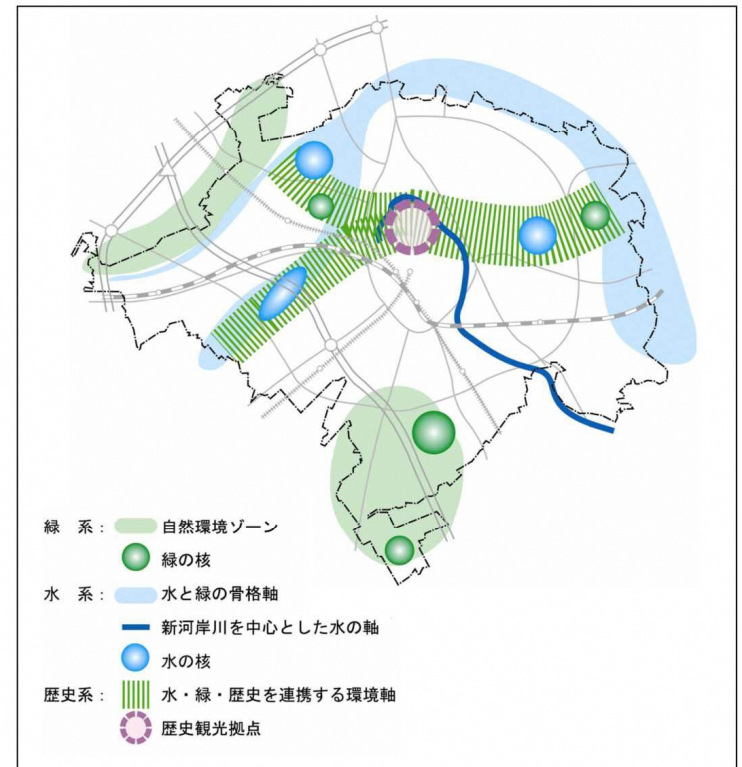
一番街を中心とした蔵造りの町並み、喜多院などの寺社と新河岸川沿いの歴史的環境を有している地区を中心に、歴史観光拠点として位置付け、歴史資源の保全と活用及びネットワーク化を図ります。

(4) 水、緑と歴史を連携する環境軸

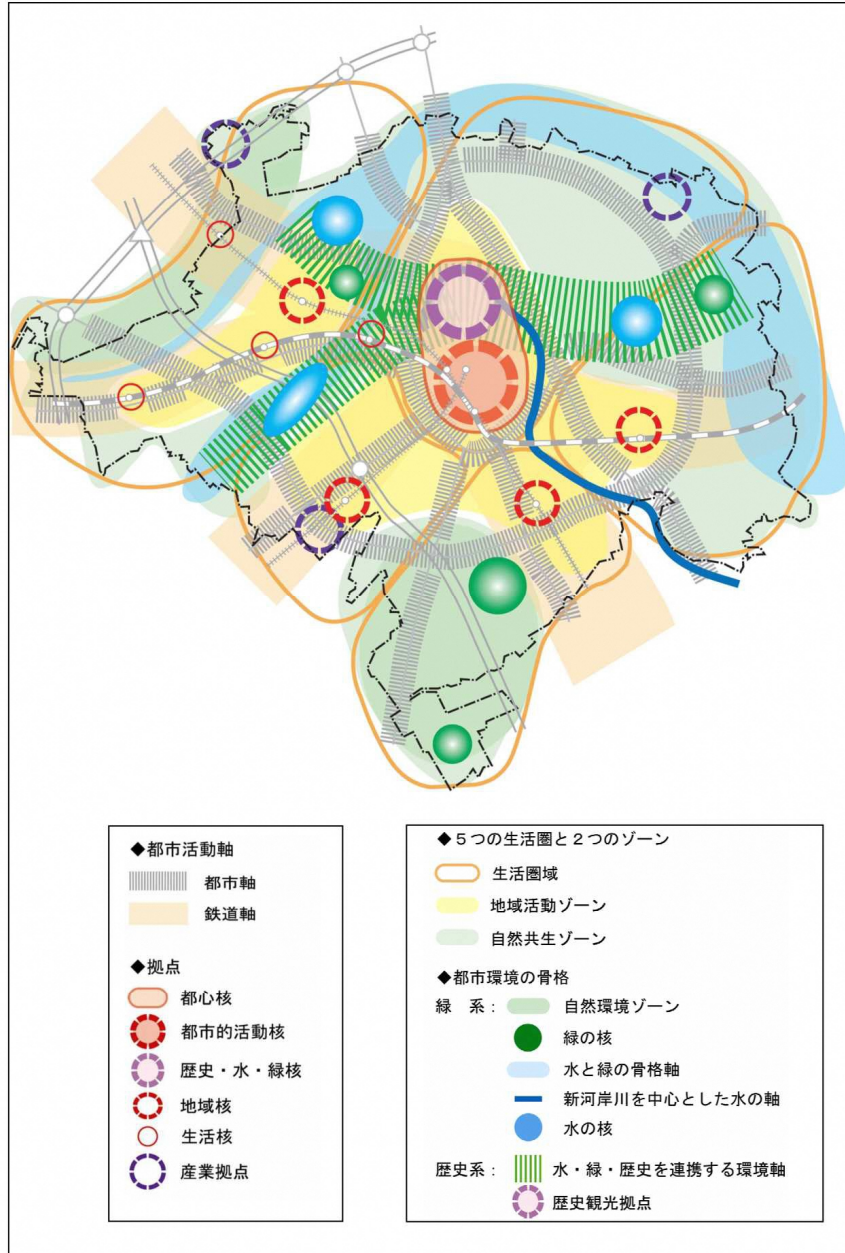
荒川・入間川から歴史、水、緑の核を連携する「環境軸」

川越の特徴である歴史や豊かな緑、水を有機的に連携する空間的つながりを環境軸として位置付け、道路整備を含めた周辺整備により快適な都市づくりを進めます。

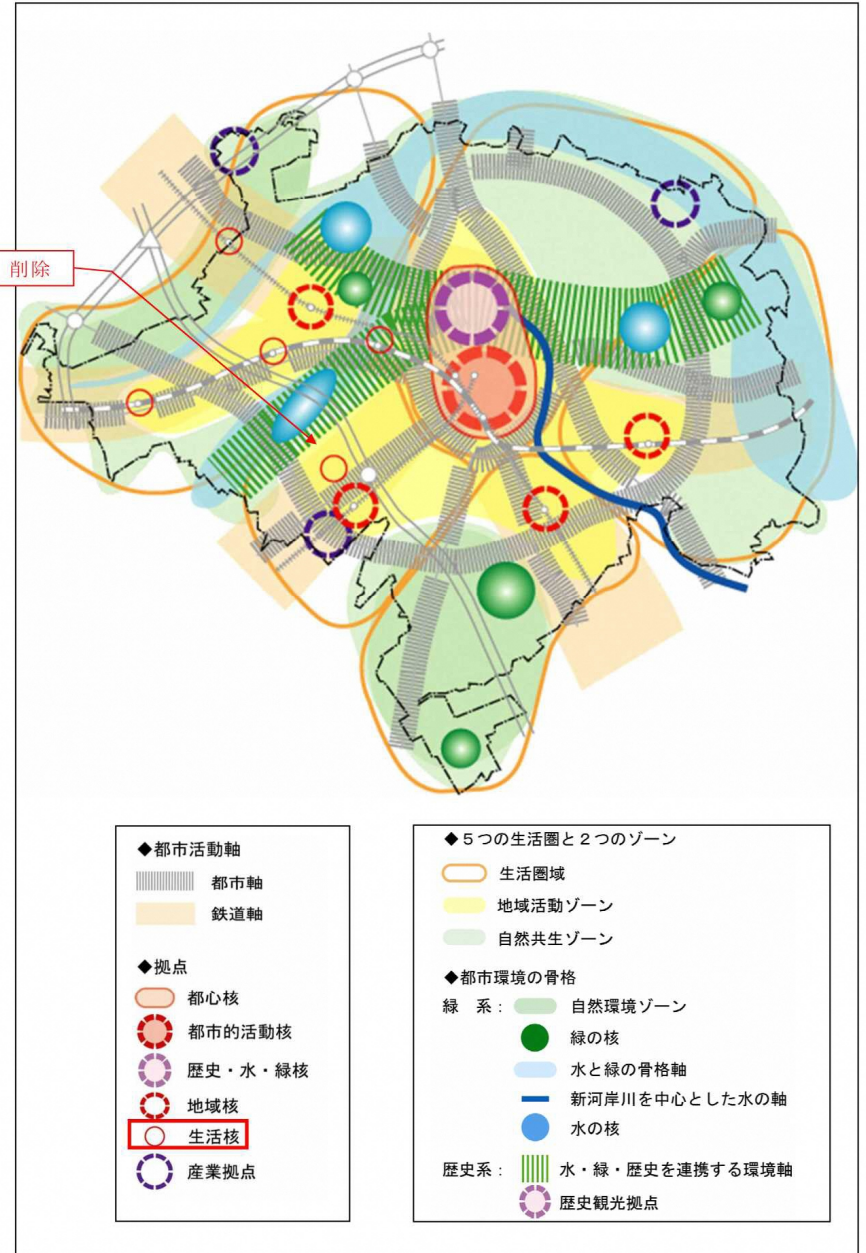
●都市環境の骨格づくり



●将来都市構造



●将来都市構造



②複合市街地の住環境の確保

- ・山田地区は、農地、低層住宅、流通系施設が混在した地区です。今後は、宅地化農地を適正に誘導し、流通系業務地区としての操業環境と中低層住宅地としての環境調和に配慮したまちづくりが求められてきます。
- ・泉町は、大規模工場跡地の計画的な開発により、商業施設と都市型住宅の建設が進んでいます。こうした地区では、商業地としての機能と住宅地における安全性、快適性、うるおい等を重視した総合的な市街地整備を検討することにより、多様な居住形態に対応した良質な住宅の供給を図っていきます。

③多様な人々が住み続けられる良質な住宅の供給

- ・公営住宅では、住宅に困窮する人々のために、適正に住宅を供給するよう努めます。特に、高齢者や障害者向けの住宅の供給も考える必要があります。また、民間住宅でも、多様な家族・世帯の状況に応じた住宅が適切に供給されるよう、積極的な支援・誘導策を検討します。

4) 新しい拠点の整備**(1) 周辺環境や地区特性に応じた新たな拠点整備**

本市は約70%が市街化調整区域です。その大部分は、豊かな田・畑等ですが、一部で産業地の拡大や公共公益施設そして水と緑の拠点等の整備が検討されています。

これらの新たな拠点整備については、周辺の豊かな自然環境等との調和を目指し、総合的・計画的な土地利用の検討を進めていきます。

①新たな産業地の創出

- ・周辺地区環境との調和に配慮しつつ、地域の特性を生かした新たな産業地の創出を図ります。
…川越工業団地・卸商団地の拡充

②水と緑の拠点整備

- ・本市の自然環境を生かした、新たな魅力づくりを推進します。
…(仮称)川越市森林公園、伊佐沼公園、なぐわし公園、入間川河川敷の(仮称)芳野公園、(仮称)池辺公園 等

③その他の公共公益施設等の整備

- ・新たな公共施設の立地については、周辺環境及び中心市街地の状況に配慮し適正に立地を推進します。
…教育・文化施設、(仮称)川越市新清掃センター、スポーツ・多目的施設

②複合市街地の住環境の確保

- ・山田地区は、農地、低層住宅、流通系施設が混在した地区です。今後は、宅地化農地を適正に誘導し、流通系業務地区としての操業環境と中低層住宅地としての環境調和に配慮したまちづくりが求められてきます。
- ・泉町は、大規模工場跡地の計画的な開発により、商業施設と都市型住宅の建設が進んでいます。こうした地区では、商業地としての機能と住宅地における安全性、快適性、うるおい等を重視した総合的な市街地整備を検討することにより、多様な居住形態に対応した良質な住宅の供給を図っていきます。

③多様な人々が住み続けられる良質な住宅の供給

- ・公営住宅では、住宅に困窮する人々のために、適正に住宅を供給するよう努めます。特に、高齢者や障害者向けの住宅の供給も考える必要があります。また、民間住宅でも、多様な家族・世帯の状況に応じた住宅が適切に供給されるよう、積極的な支援・誘導策を検討します。

4) 新しい拠点の整備**(1) 周辺環境や地区特性に応じた新たな拠点整備**

本市は約70%が市街化調整区域です。その大部分は、豊かな田・畑等ですが、一部で産業地の拡大や公共公益施設そして水と緑の拠点等の整備が検討されています。

これらの新たな拠点整備については、周辺の豊かな自然環境等との調和を目指し、総合的・計画的な土地利用の検討を進めていきます。

①新たな産業地の創出

- ・周辺地区環境との調和に配慮しつつ、地域の特性を生かした新たな産業地の創出を図ります。
…川越工業団地・卸商団地の拡充

②水と緑の拠点整備

- ・本市の自然環境を生かした、新たな魅力づくりを推進します。
…(仮称)川越市森林公園、伊佐沼公園、なぐわし公園、入間川河川敷の(仮称)芳野公園、(仮称)池辺公園 等

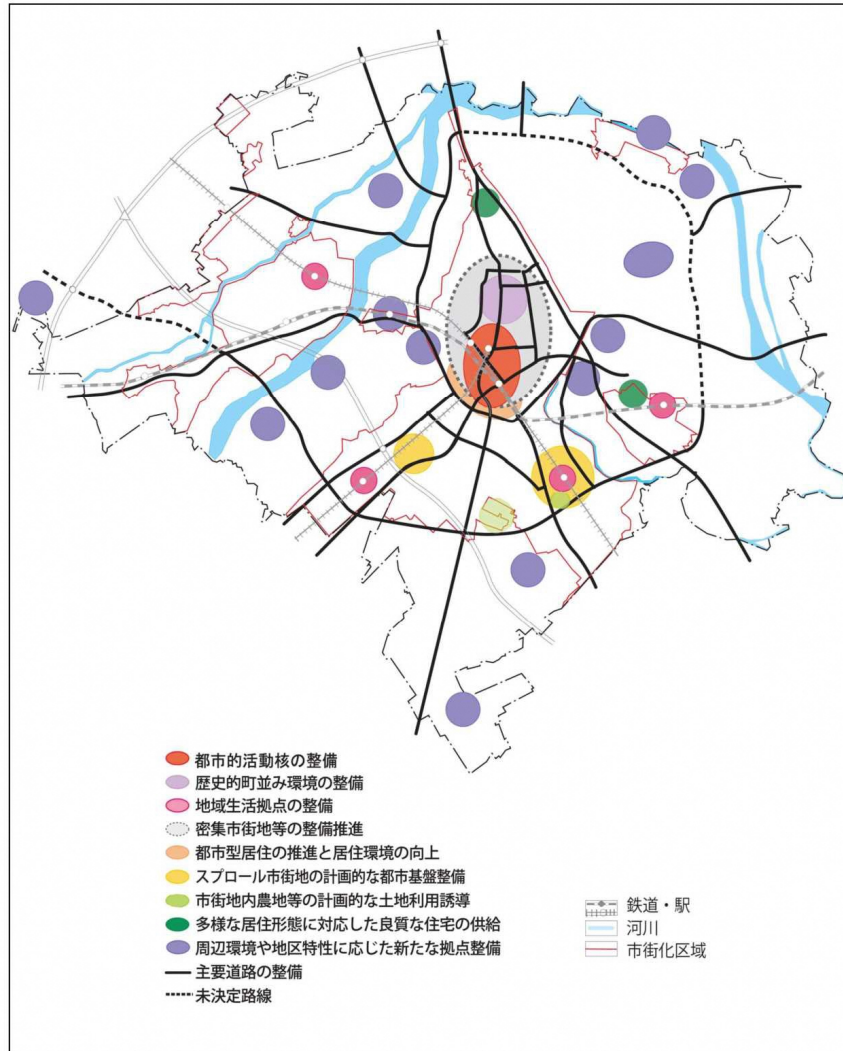
③その他の公共公益施設等の整備

- ・新たな公共施設の立地については、周辺環境及び中心市街地の状況に配慮し適正に立地を推進します。
…教育・文化施設、(仮称)川越市新清掃センター、スポーツ・多目的施設

④新たな生活核の充実

- ・現在、利用者が少ない駅周辺については、地域特性に応じた身近な生活拠点として、日常利便性の向上に対応した環境整備の充実を図ります。

●市街地整備の方針図



④新たな生活核の充実

- ・現在、利用者が少ない駅周辺や、西武新宿線安比奈車両基地の設置に伴い計画されている新駅周辺については、地域特性に応じた身近な生活拠点として、日常利便性の向上に対応した環境整備の充実を図ります。
- … 安比奈新駅周辺

●市街地整備の方針図

